

## 特別講演 2

### 「肺癌の発見とその診断について」

藤田保健衛生大学医学部 呼吸器内科学 I 講座 教授  
今泉 和良 先生

肺癌は我が国のがん死亡の第一位をしめる国民の健康上の大問題である。高齢者と喫煙関連肺疾患（肺気腫、間質性肺炎）の増加と共に、画像的に非典型的な症例や、既存の肺疾患のため発見の困難な肺癌症例が増加している。胸部レントゲンで、はっきりと異常が確認できる症例の多くは進行肺癌である。しかし早期の発見をしようと胸部 CT を行えば、今度は様々な陰影が映し出され、どう対処すべきか専門医でも悩む症例が少なくない。一方で、近年の CT、気管支鏡を中心とした診断技術の進歩によって、これまで診断が困難であった小さな肺癌や、外科的生検に頼らざるを得なかった一部の病理診断が内視鏡診断で容易に行えるようになった。さらに、気管支鏡検査が、“死ぬほど苦しくて、もう二度と受けたくない”というのは一昔前の話であり、現在は鎮静術の普及によって気管支鏡の苦痛は緩和され、治療方針決定のために気管支鏡での生検が二度三度と必要となる時代である。この講演では呼吸器内科の立場から肺癌診断における胸部レントゲンの pitfall や胸部 CT で見つかる様々な肺癌とその診断アプローチを近年の内視鏡診断の進歩をふまえてお話しする。